

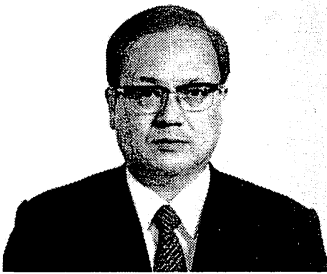
旭川医大病院ニュース

第二内科長に就任して

第二内科長 牧野 勲

このたび八月十六日付けをもちまして過日停年で御退官されました石井兼央教授の後任として第二内科を担当することになりました。身に余る大役であり、責任の重大さに身の引き締る思いで居ります。

私は小樽市に生れ、小樽潮陵高等学校を卒業後、昭和三十一年北大教養部に入学し、三十七年医学部を卒業しました。北大病院での実地修練を経て、北大第二内科に入局し、当時の故真下啓明教授ならびに第二生



化学の今井陽教授から胆汁酸代謝研究の御指導を賜りました。四十四年スウェーデン王立カロリンスカ研究所化学部門に留学し、各種クロマトや質量分析など本格的な生化学分析手法と胆汁酸研究の本流を学び、四十六年帰国しました。その後、故真下教授の後任であります中川昌一教授の御指導を受け、コレステロール胆石の病態解明、ウルソデオキシコール酸胆汁溶療法法の開発、血中胆汁酸測定法のルーチン化、胆汁酸免疫学的測定法の確立に従事しました。五十六年弘前大に転出して、第二内科武部和夫教授のもとで助教を務め、そこでは肝胆膵の代謝研究に加え、内分泌、糖尿病、感染症、神経系疾患の診療・研究、教育に従事しました。また最近ではMRI画像診断法による各種内分泌疾患の病態解析や地場産業と

題字は吉岡前病院長
〔編集〕
旭川医科大学医学部附属
病院広報誌 編集委員会
委員長
清水教授（産婦人科）

密接したアップルファイバーの医療面への応用にも手を染めて居りました。弘前は秀峰の岩木山、弘前城の桜、夏のネプタ祭りや有名な城下町ですが、そこでの研究生活は私の専門領域を広げることとなり、この上ない幸せでありました。此度赴任致しました第二内科は四十九年石井教授により創設され、現在迄十四年の月日が経過します。その創成期には弘前大の武部教授が初代助教として当教室の基盤作りに御尽力された経緯もあります。今後私は石井教授が築かれた教室の伝統を守り、業績を一層発展させるよう全力を傾倒し、努力する所存で居ります。最近における内科領域の診断と治療の進歩は著しいものがあり、今後はさらにそれが加速されるものと推定されます。これらの急速な進歩に対応出来る教室作りが当然要求されますが、その一方オリジナリティな臨床研究は多くの努力と研鑽を必要とし、その結実には腰をすえた粘り強い

消防訓練 行われる

去る八月十九日（金）午後三時から本院において本年度第一回目の消防訓練を行いました。

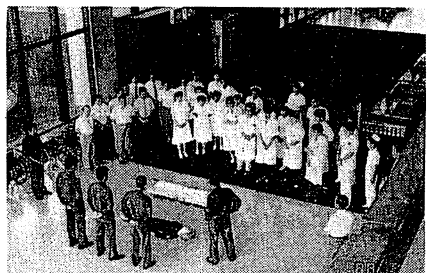
当日は四階西病棟リネン室から出火したとの想定のもとに本学自衛消防隊による通報連絡、初期消火、並びに避難誘導を主とした総合訓練を実施し、午後四時に無事終了しました。

また、訓練に先立ち消防署員による担送患者等の搬送実技講習会を玄関ロビーにおいて行いました。

はじめの試みのこの講習会には病院長をはじめ多くの教職員の参加をいただき大変有意義なことであったと思われまます。

研究態度が不可欠と考えて居ります。このような観点に基づいて有能な若い研究者を育成し、同時に世の中に立派な医師として通用する内科医を育てることが私に与えられた任務であると考えて居ります。

もとより微力でございますが、与えられた職責を果すべく全力を尽す所存でございますので、何卒よろしく御指導、御鞭撻下さいませお願い申し上げます。



これからも、このような講習会を随時行つてまいりたいと思ひますので皆様のご協力よろしくお願いいたします。



訓練の結果は概ね当初の期待に沿う成果をあげることに

とができたものと考えております。ご存知のように、本学には常時五〇〇人を越える人達が入院しており、このため防火については特に気を配っているところでありますが、不幸にして火災が発生した場合には、その被害を最小限に止むるため、職員迅速かつ適切な行動が要求されることとなります。



これら一連の行動は、訓練の繰り返しにより各自が身につけるものであると考えております。このため今後も定期的に消防訓練を計画実施していく予定でありますので、これらをご理解いただき、多数の皆様方の参加、並びにご協力をお願いいたします。
防火の大役
あなたが主役
(会計課)

特殊検査室の紹介

特殊検査室の業務は、昭和五十二年四月より、RI 棟に併設されてきた血管撮影検査、放射線治療での看護業務を、五十二年七月から、名称も特殊検査室として看護婦三名で担当し、婦長は、外来婦長が兼任でスタートしました。五十五年血管撮影室の増設で、新たに看護婦二名が配置され、五名で血管撮影、特殊撮影(泌尿器系)透視下での整形の検査介助も受持つようになり、六十三年四月には、看護婦長が配置になっております。勤務体制は、放射線治療も含めて各パートを二ヶ月づつ担当しています。心カテーテル、血管撮影の検査件数は、発足当時の五十二年三〇〇例、五十四年五〇〇例、六十年からは九〇〇例をこえる様になり、特に循環器の検査件数は増加の一途をたどっています。検査内容も多様化し、近年複雑で高度な治療を目的とする検査が多くなりました。検査によっては、開腹・皮

下埋込み術等小手術の相相を呈しています。検査の多様化、件数の増加は繁雑を極めますが、当然の事ながら、限られた時間の中でも看護の本質を見失わず患者援助を中心に心がけています。カテーテルは、従来、材料部と一部各科扱であったものが、昨年十月から、放射線部扱い、特殊検査室管理となり、現在、カテーテルは七〇種類、規格別では二〇〇種にも及び



山崎 五十嵐 村本
澤 藤 北出

その他の器材も含めて放射線部技師の人々と連携プレーで請求・管理をしています。放射線治療の業務は、60Co・リニヤック治療介助、治療を受ける患者のプランニング時のオリエンテーション等を中心とした患者援助に当たっています。治療は、当院の入院患者が大部分を

占めています。時には半数近くが通院患者(他の病院・自宅)という時期もあります。前述の様に治療部門も一名の看護婦が受持つ体制で、五十三年以来、通院患者全員を対象に、病棟同様、生活像の聴取、看護計画を立て、週二回のカンファレンスを通して修正、評価しケアを行っています。患者は、治療を受けることの心配、不安、治療中に出る宿酔症状、副作用と精神的、身体的苦痛は、はかり知れませんが、短い時間の中で、患者の苦痛を少しでも軽減するためにより質の高いケアが要求されます。個々の患者にそくした看護を提供出来るよう、今後共同努力して行きたいと思えます。(看護婦長 藤沢弥恵子)

【薬剤部】 新薬紹介(16) デノパミン (カルグート錠)

心不全は、「心ポンプ機能が障害され、全身の代謝要求に必ず必要なだけの血液量を拍出できなくなった状態」と定義されます。その機序として、拍出抵抗の増大、心筋収縮力の低下、心室充滿の不全などが考えられ、

また基礎疾患として虚血性心疾患、高血圧症、心臓弁膜症、先天性心疾患、心筋症などがあげられます。心不全の治療は、一般療法(安静ないし運動制限、食事制限)、薬物療法、特殊療法に分けられます。現在、薬剤としては心筋の収縮力を高めるために、ジギタリス制剤とカテコラミン製剤に、利尿剤と血管拡張剤が用いられています。しかし、ドパミンやドブタミンなどのカテコラミン製剤は急性循環不全時にのみ経静脈的に用いられるものであります。また慢性心不全時対策用の経口強心剤としては、ジギタリスが主に用いられてきましたが、強心作用と不整脈などの副作用との開きが小さいため、十分な薬理作用を期待するには、用量設定が難しいなどの問題があります。

こうした背景のもとに、デノパミンは、β₂アゴニストである気管支拡張剤トリメトキノールの構造活性相関の研究から出発し、血圧、心拍数に影響を与えないで強心作用を発現する経口投与可能な薬剤としてドラッグデザインされたものであります。

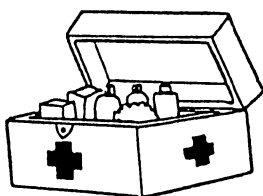
強心効果の作用機序は、主としてβ₁受容体刺激を介し、細胞内 cyclic AMP を

上昇させ、細胞膜CaチャンネルからCa²⁺イオンの細胞内流入が生ずるためと考えられています。その特徴として、①血圧、心拍数にほとんど影響を与えない用量で、心筋収縮力を増強させる、②長期投与で効果が持続する、③β₁受容体刺激剤としては不整脈誘発作用が弱い、④薬効量で耐性が起り難い、⑤腸管における吸収が良好であり、経口投与が可能です。これらの作用は、デノパミンの極めて高いβ₁受容体の選択性と partial agonist 的な性質が関与していると考えられています。

臨床試験成績については、うつ血性心不全患者およびカテコラミンの静脈内持続点滴に依存した患者を対象として検討されております。その結果、うつ血性心不全患者に対し、ジギタリス、利尿剤、血管拡張剤などの併用薬、NYHA心機能分類、心筋疾患、弁膜疾患、冠動脈疾患、高血圧症などの基礎疾患の背景因子に影響されず良好な結果が認められています。一方、カテコラミン静脈内持続点滴依存患者から本剤の経口投与への切り換え試験でも、カテコラミンからの離脱成功率は高いとあります。症状面でも自覚症状や、理学的所見の各種心不全症状全体

に改善、消失をみております。副作用として注意しなければならぬ心室性期外収縮や心室頻拍の発現や増悪は、二重盲検試験でブラセボ群にみられた自然発生頻度の変化と同程度であり、その他の副作用を含め安全性が高いと考えられます。用法・用量は通常成人一日15~30mgを三回に分けて服用する、ただし、多くの場合、他剤(ジギタリス、利尿剤、血管拡張剤等)と併用する、となっております。

以上、本剤はβ刺激剤でありながら、血圧、心拍数にほとんど影響を及ぼさない用量で強心作用を示し、経口投与が可能な薬剤である点で注目されます。(薬品情報室長 藤田育志)



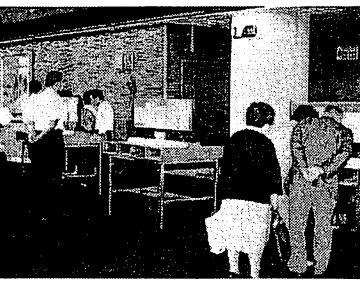
藤田育志

病院で働く人々の 総合案内



「広くて立派」と評判の当院の玄関ホールに総合案内のコーナーがある。外来受診の方への診療案内等を目的として、開院時から設けられている。当初は、病棟の各ナースステーションから交代で行っていたが、入院患者の増加に伴い業務が多忙になったことなどもあり、五十八年十一月から専属の看護婦（非常勤）が担当している。現在の坂東美智子さんで六代目——当院での経験も豊富なベテランである。

八時三十分から診療受付時間終了まで、防災センター警備員の方と共に、診療科の案内や電話相談、救急への対応、初診再診の申し



込み用紙の書き方説明や時には代筆などもある。また来客者に学内や病院内への行先案内等病院のインフォメーションの役も入ってきて多様である。遠くから初めて訪れる不

無影灯

「安でいっぱいの患者さん」とり、総合案内の看護婦に相談出来ることは「ほっとするし、うれしいものです」との声がきかれ、責任も重大であるが、いろいろの症状を並べる患者さんの話を聞きながら、さてこの科に受診していただくとういのかをさめるのは簡単のようでもむずかしい。現在のよう

いづもなら肩越しに受ける無影灯の光をまともに見た。瞬間、眩しくはあったが、たのもしくも感じられた。その光に無言の宣告をされたように医者から患者へと急転し、そのまま意識を失った。

患者の諸々の痛みをわかる医師にと、己にも、また若い医師、学生にも説くが、病んでいるだろうと頭で理解できても、生理的な痛み

数年前のこと、ある受持ち患者から苦言を聞かされたことがある。その患者はこの病院が好きだから敢えて、と前置きして、入院期間中のわれわれの診療態度について、プロとしての自覚が欠如している、一つ一つ具体例を挙げてきた。その内容は治療に関する

として所詮感じとることはできない。医療技術が高度化の一途を辿り、検査も増え、それらをこなして行くだけで一杯であることも確かである。疲れきって患者への対応も不本意になり、言葉数

もろくに説明してくれない、長髪で不潔である云々と。患者は敏感である、いや、そうなるものなのである。

患者は二週間毎日、足繁く患者のもとにかよっていたという。黄色い胸の名札がわれわれの名札より一

必要だ、絶えずそばにいらなければならない。そういえばこんなことがあった。患者からあの先生はどこか出張に出られたのですかと聞かれた。しかし該当する医者は当科には見あたらなかった。よく聞くと、その医

側喫煙室が完成しました。従来、玄関ホール、外来患者待合所に灰皿を置いていたのを、玄関ホールの郵便局側にか所喫煙場所を指定し、外来患者待合所は禁煙にしております。

喫煙室 玄関ホールへ設置

院内のより良い環境を維持するため、皆様のご協力をお願いいたします。

段と白く見えたのもうなずけたが、しばらくして、パツの悪さが襲ってきたことも憶えている。



（庶務課）

先生ノと呼び醒まされ、気がついたときは無影灯は消えていた。無意識に見た手術室の時計は三時をわずかに過ぎていた。どうやら悪い夢を見ていたようである。

学生時代から趣味でやってきたサッカーで不覚にも鎖骨を折り、整形外科で手術していただいたこの七月四日の午後のことである。

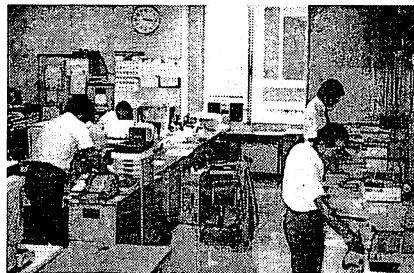
（第二外科講師 草野満夫）

医事課の紹介 4

中央診療事務係

今回は中央診療事務係を紹介いたします。当係は係長以下四名で運営しており、場所は医事課、入院受付の向い側で、通常は外来カルテを格納しているシステム・トリップという機械が作動しており、すこしばかりさわがしい所です。

担当している業務内容については係名だけでは判然としなないかもしれませんが、主として外来カルテ、入院カルテ、X線フィルムを管理しており、このほか中央診療施設等の診療統計も行っていきます。



カルテ類は、本院開院以来のものが累積し、現在では外来カルテ約一三万九千件、入院カルテ約四万八千件、X線フィルム約一百万件にも及んでおり、格納場所も外来カルテは係事務室に、又入院カルテ、X線フィルムは一階にある記録室(保管室)及び一階多目的室に分散して格納してあります。記録類は減ることがありませんので格納場所の確保が、大きな問題となつてきています。

さて、毎日の業務の中で大きな部分を占める外来カルテの動きなどをみてみますと、まず患者さんの診療予定日の前日に予約リストによって、トリップより取り出し該当の各診療科にふりわけます。そして診療当日、予約していない患者さんが来院されますと、その都度トリップから取り出し各診療科窓口にとどけます。この運搬については(診療終了後の回収も含めて)メッセンジャーさんが担当しています。

又このほか、教育・研究のために入院カルテ、X線フィルムを含めた貸し出し

も行っていきます。このように外来カルテだけをみましても、毎日約千件のカルテが動いていることとなります。

次に貸し出しについてですがその要領は「診療マニュアル」一五〇―一五一頁に記載されておりましてのご一読下さい。又特に気を付けていただきたい点は次のとおりです。

- 一、個人情報記載されていますので借用期間中の管理にご注意下さい。
- 二、借用期間中に該当する患者さんが診療のため来院されるケースが多々ありますので、その時は早急に当係の指示にしたがって下さい。
- 三、借用件数が多い時は、ご希望どうりにはそいかねる場合がありますので

ご留意下さい。以上簡単ではありますが中央診療事務係の業務内容等について説明いたしました。当係としましてはより早くカルテ等を必要とする各部署にとどけたいと考えておりますので、関係する皆様のお協力をお願いいたします。(医事課)

職員レクリエーション

行事について

本学では、職員の福利厚生事業の一環として、例年全学的なレクリエーション行事を企画し実施しております。

これは、健全な文化・体育等の活動を通じ、職員の元氣回復、相互の親睦を深めて、勤務能率の増進に資

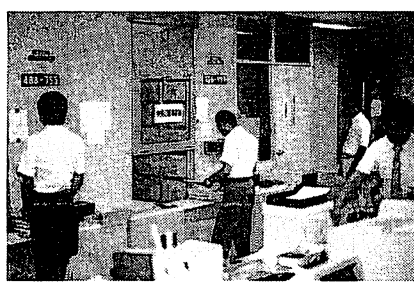
することを目的としております。本年度も多数の職員が参加できる行事等を基本として計画しました。

七月に実施しましたソフトボール大会には、十八チーム三〇二名の職員の参加があり、機器・RI連合チームが前年度優勝の動物

実験チームを破り優勝しております。また、昨年からはじめました旭川ジャンポール利用券発行は、連日の好天で約三〇〇名の職員やその家族に利用されました。

十月以降のレクリエーション行事を次のとおり予定しておりますので、多数の職員のお参加をお願いします。

- 十月下旬 ボーリング大会
- 十二月中旬 バレーボール大会



○十二月中旬・二月中旬 スキーリフト割引券発行
○通年行事 映画・観劇割引券発行

なお、各行事の詳細については、実施要領等が決まり次第文書又は掲示にて逐次お知らせいたします。レクリエーション行事全般についてご意見ご要望等がありましたら庶務課職員係までお寄せください。(庶務課)

昭和62年度入院・外来統計

病床数 { 承認病床数 602床
 予算病床数 600床

| 月 | 入院患者数 | | | | | 外来患者数 | | | | | | |
|----|-------|-------|------------------|-------------|------|-------|--------|--------|---------|---------|-------------|--|
| | 入院数 | 退院数 | 在院患者数 (文部省方式) | 1日平均 入院数 | 稼働率 | 初診 | | | 再診 | 合計 | 1日平均 患者数 | |
| | | | | | | 初来院 | 初診 | 計 | | | | |
| 4 | 396 | 408 | 15,573 | 519 | 86.5 | 668 | 1,822 | 2,490 | 12,715 | 15,205 | 25日 608 | |
| 5 | 412 | 401 | 15,915 | 513 | 85.6 | 757 | 1,704 | 2,461 | 12,303 | 14,764 | 24日 615 | |
| 6 | 439 | 456 | 15,690 | 523 | 87.2 | 945 | 1,908 | 2,853 | 13,366 | 16,219 | 26日 624 | |
| 7 | 487 | 453 | 16,222 | 523 | 87.2 | 941 | 1,948 | 2,889 | 13,851 | 16,740 | 27日 620 | |
| 8 | 426 | 452 | 16,032 | 517 | 86.2 | 911 | 1,898 | 2,809 | 12,987 | 15,796 | 26日 608 | |
| 9 | 430 | 425 | 15,655 | 522 | 87.0 | 769 | 1,805 | 2,574 | 13,245 | 15,819 | 24日 659 | |
| 10 | 430 | 447 | 16,143 | 521 | 86.8 | 753 | 1,753 | 2,506 | 13,882 | 16,388 | 26日 630 | |
| 11 | 406 | 400 | 15,375 | 513 | 85.4 | 699 | 1,574 | 2,273 | 12,313 | 14,586 | 23日 634 | |
| 12 | 375 | 480 | 15,452 | 498 | 83.1 | 656 | 1,657 | 2,313 | 13,414 | 15,727 | 24日 655 | |
| 1 | 481 | 384 | 15,181 | 490 | 81.6 | 733 | 1,829 | 2,562 | 12,524 | 15,086 | 23日 656 | |
| 2 | 436 | 394 | 15,332 | 529 | 88.1 | 688 | 1,656 | 2,344 | 12,677 | 15,021 | 24日 626 | |
| 3 | 485 | 492 | 16,661 | 537 | 89.6 | 814 | 1,991 | 2,805 | 14,654 | 17,459 | 26日 672 | |
| 計 | 5,203 | 5,192 | 189,231 | 517 | 86.2 | 9,394 | 21,545 | 30,879 | 157,931 | 188,810 | 298日 634 | |

*稼働率は予算病床で計算